

平成14年度

一般会計決算の概要

この資料は、平成14年度一般会計決算（速報値）の概要を取りまとめたものです。
なお、決算については、監査委員の審査を経て、第3回市会定例会に上程することとなります。

財 政 局

目次

1 . 平成14年度一般会計決算の概要	1 ~ 3
2 . 歳入決算の概要	4 ~ 6
(1) 歳入決算の概要	
(2) 市税の決算額について	
(3) 市債の決算額について	
3 . 歳出決算の概要	7 ~ 18
(1) 歳出決算の概要	
(2) 主要事業の決算	
参考資料	19 ~ 22
< 一般会計 >	
1 . 歳入・歳出決算額及び実質収支	
2 . 歳出最終予算額と歳出決算額の対比	
3 . 市税決算の概要	
4 . 地方交付税・臨時財政対策債の推移	
5 . 財政調整基金の推移	
< 特別会計 >	
6 . 特別会計決算の概要	
< 企業会計 >	
7 . 企業会計決算の概要	

表示単位未満を四捨五入して端数調整をしていないものがあるため、合計等と一致しない場合があります。

1. 平成14年度一般会計決算の概要

決算のポイント 1

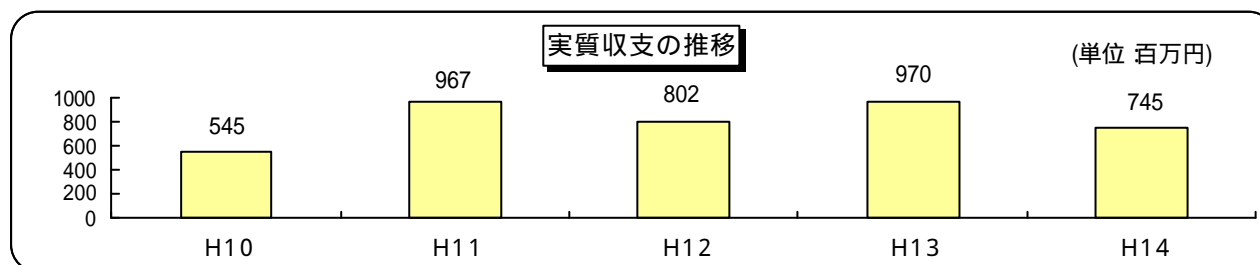
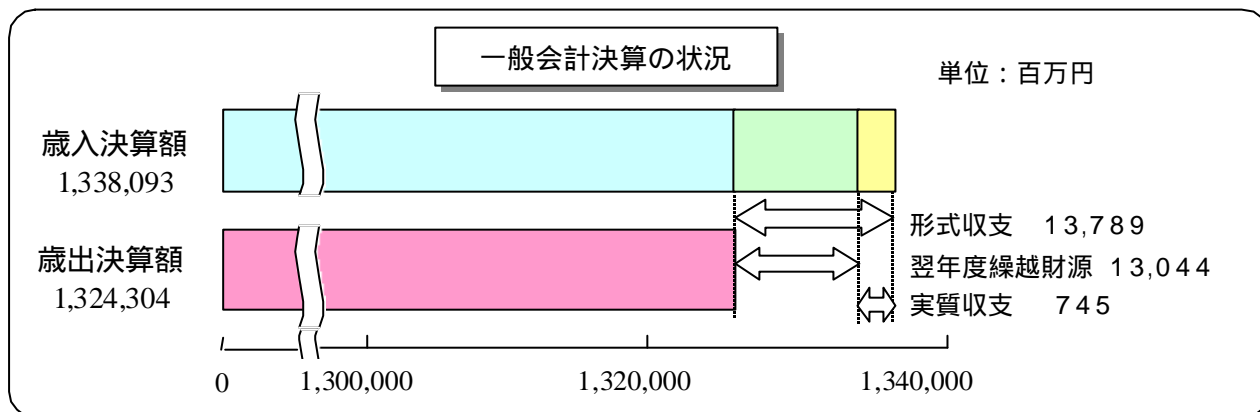
14年度の一般会計決算における実質収支は、7億4,500万円の黒字となりました。

昭和41年度以降、実質収支(1)は36年連続で黒字が続いています。
 実質収支の額は、過去10年間で小さい方から5番目です。

一般会計決算の状況

(単位：百万円)

	14年度	13年度	増減 -	増減比
歳入決算額 A	1,338,093	1,388,831	50,738	3.7%
歳出決算額 B	1,324,304	1,376,976	52,672	3.8%
形式収支 C = A - B	13,789	11,855	1,934	
繰越財源 D	13,044	10,885	2,158	
実質収支 E = C - D	745	970	224	



(参考) 全会計決算(歳出)の状況

(単位：百万円)

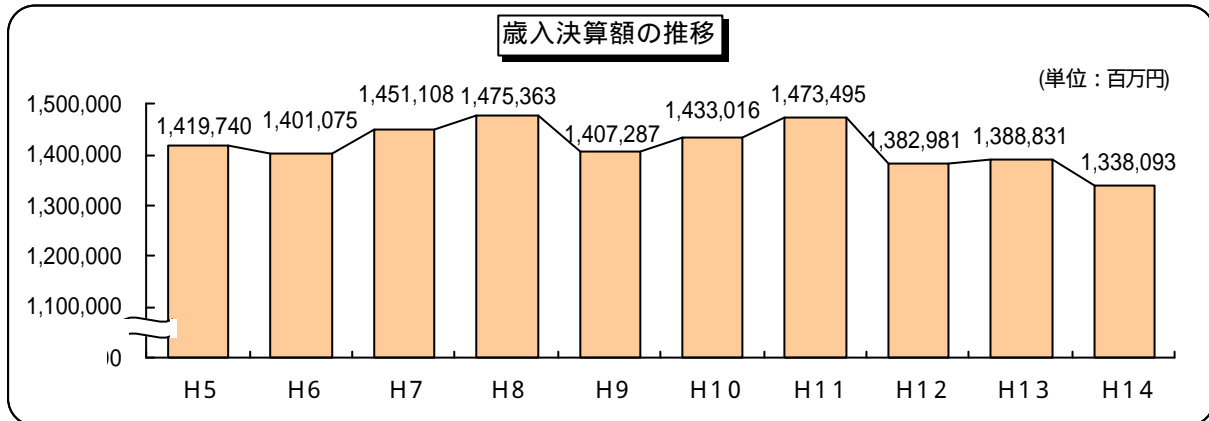
区分	14年度	13年度	増減 -	増減比
一般会計	1,324,304	1,376,976	52,672	3.8%
特別会計	1,331,391	1,232,935	98,456	8.0%
公営企業会計	653,485	649,848	3,637	0.6%
全会計純計	2,421,674	2,442,150	20,476	0.8%
(全会計総計)	(3,309,180)	(3,259,758)	(49,422)	(1.5%)

1 実質収支：形式収支（歳入決算額から歳出決算額を差し引いた額）から翌年度に繰り越す事業に充てるための財源を差し引いたもので、当該年度に属すべき収入と支出の差を示しています。

決算のポイント 2

歳入は、市税収入や市債発行額の減などにより、1兆3,380億9,300万円、前年度比3.7%減(507億3,800万円)となりました。これは、過去10年間で最も小さい規模となります。

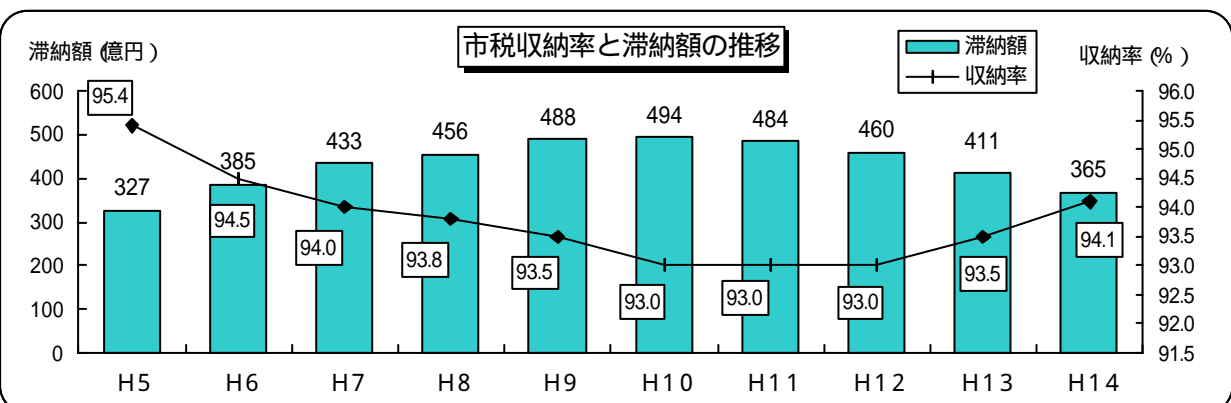
歳入が減となったのは、市税収入が法人市民税や固定資産税の減により2.0%(141億600万円)減となったこと、発行抑制の継続により市債発行額が21.8%(212億3,500万円)減となったことなどによるものです。



決算のポイント 3

市税は、法人市民税(77億5,300万円)や固定資産税(24億5,100万円)の減により、前年度決算比2.0%(141億600万円)減の6,784億4,300万円となりました。これは、過去10年間で最も低い額となります。

一方、納税環境の厳しい中、滞納整理支援システムの導入効果等を活用し、収納対策に積極的に取り組んだ結果、収納率については、前年度比で過去最大となる0.6ポイント向上し、94.1%となりました。また、滞納額も前年度より46億円減少し、8年ぶりに400億円を下回る365億円となりました。



決算のポイント 4

詳しくは6ページをご覧ください。

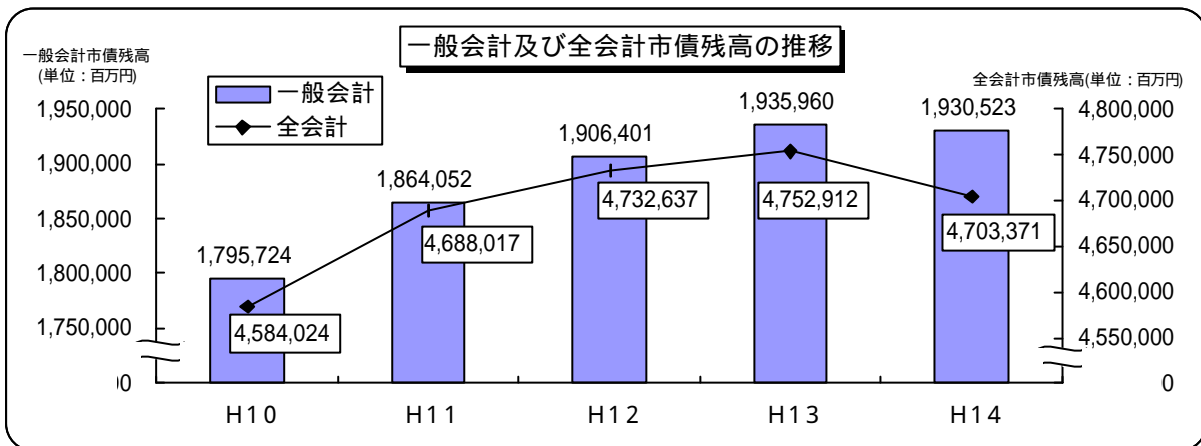
一般会計の市債残高(減税補てん債、臨時財政対策債等を除く)が、はじめて減少(前年度決算比 0.3%、54億3,700万円減)しました。

なお、特別会計・企業会計を含めた全会計の市債残高についても、対前年度 1.0% (495億4,100万円)の減となりました。

平成14年度末市債残高

一般会計 1兆9,305億2,300万円(減税補てん債、臨時財政対策債等を除く)

全会計 4兆7,033億7,100万円(減税補てん債、臨時財政対策債等を除く)



決算のポイント 5

詳しくは7ページをご覧ください。

歳出は、大規模施設の完成などにより、1兆3,243億400万円、前年度決算比 3.8%減(526億7,200万円)となりました。これは、過去10年間で最も小さい規模となります。

歳出が減となったのは、北部斎場、横浜港大さん橋国際客船ターミナル、芸能センター、北部病院、赤レンガ倉庫改修等の大規模施設が完成したことなどによるものです。

